令和2年度 山梨県立上野原高等学校学校評価 実施報告書(自己評価·学校関係者評価)

学校目標·経営方針		校訓「叡知創造」の精神のもと、21世紀をたくましく、心豊かに生き抜き、社会の進展や調和に貢献	できる人間を目指す
本年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立と、安全管理・規範意 識の高揚を図る指導に努める。 2 学習習慣の確立と確かな学力の定着を図り、 個々に応じた進路実現をかざしたセヤリア教育の 充実に努める。 3 生健会活動を活発化するとともに、諸活動をと 3 でのようなのである。	A ほぼ遠紋できた。(6割以上) 速 B 概ね遠泳できた。(6割以上) 度 C 不十分である。(4割以上) D 速球できなかった。(4割以下)	(評価点)報告書に 評価点は、回答%に *留意事項 なおR2年度は新型: 当初年2回の実施予

山梨県立上野原高等学校校長 小佐野 景賀

(評価点)報告書に記載した数値は原則これである。R1評価→R2評価[増減]		4	良くできている。
評価点は、回答%に係数を乗算した総和(計算式) 中央値は(0)となる	評	3	できている。
*留意事項	価	2	あまりできていない。
なおR2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大による休校措置のため		1	できていない。

当初年2回の実施予定を12月の1回のみとした。

	自己評価						学校関係者評価		
	本年度の重点目標				年度末評価(12月7日 現在)			実施日(平成3年2月18日)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見·要望等	
		① 自己管理能力の育成を図り、遅刻や欠 席、朝食の欠食を減らす基本的生活習慣の 確立を図る指導 ② 法令遵守及び社会規範への意識を高め	学校評価アンケート等	以下、生徒評価および教員評価のベスト3、ワースト3のうち、この評価 項目1に該当する結果のみ示す。 [生徒評価]ベスト3 ①開始時刻着席[92] ②校則を守る[83] ③校則内容の理解[82]		[生徒評価] 改善した項目 ・避難場所経路の把握 44→69 [+25] ・節電節水・ゴミ分別 64→80 [+16] ・規則正しい生活 健康維持 50→65 [+15] 【教員評価] 改善した項目 ・スマホSNS適切使用 27→34 [+7]		◎節電や節水、ごみの分別などに積極的に取り組ませる指導は、日常の諸活動を通して培われていくもの。毎回の授業だけでなく、生徒会活動、委員会活動や部活動など総合的にアプローチしていかなければならない。まずは、教職員の率先垂範から始めるのが良い。 ◎防災・減災を意識した指導について、上野原市防災指導員による講演および地域防災演習の積極的参加を呼びかけたらどうだろうか。地	
1	基本的生活習慣の確立と、安全 管理・規範意識の高揚を図る指導 に努める。	r 立を図る指導 テひのす 知り ジャック ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・		【教員評価】ワースト3 ②節電節水・ゴミ分別 [33] (保護者評価)ベスト3 ① 校別規範意識 [62] ②毎朝朝食摂取 [60]	В	[生徒評画] 改善が必要な項目 なし 【教員評価] 改善が必要な項目 ・基本的生活習慣の確立 57→49 [-8] ・防災減災指導 50→46 [-4] ・規範意識の確立 52→51 [-1] ・節電節水・ゴミク別 34→33 [-1]	3	域公民館活動への参加も効果的だと考える。 ②ハザードマップによると、上野原地区には、土砂崩れなどの危険地域が数多く存在する。信風等による雨、風への備えは、きっかけがないとなかなか本気で備えをしようならないのが実情だと思う。そのきっかけづくりを誰がどのタイミングでするかの課題なのだが、上高もその一翼を	
		③ 節電・節水、ごみの分別などを通じて、環境美化を意識させる指導	水、ごみの分別などを通じて、環 学校評価アンケート等 常させる指導	(保護者評価)ワースト3 ③災害対処話し合い[8]	多くの項目において、R1年度より生徒評価と教員評価の評価点が上 界したことは成果である。災害に対する取り組みがやや不足している点 が課題である。さらにゴミの分別や節電節水のように、毎日の生活の中 で環境や安全について意識を向上させる教育活動を充実させる必要が ある。		担えるのではないか。 ②インターネット環境が整備される中、サイバー攻撃の増加、個人情報 の流出、SNSトラブルなど情報通信社会におけるリスクが伴って来てい る。情報セキュリティの重要性が大きいので、個人情報保護法の遵守 などセキュリティ教育も重要と考える。		
	学習習慣の確立と確かな学力の 定着を図り、個々に応じた進路実 現をめざしたキャリア教育の充実 に努める。	① 家庭学習と授業の一体化を進め、確かな 学力の定着を図ると共に、学ぶ意欲を高め、 主体的・協働的な学びを深める指導		以下、生徒評価および教員評価のベスト3、ワースト3のうち、この評価		[生徒評価] 改善した項目 ・シラバス授業計画把握 24→52 [+28] ・自主的な学習習慣 3→20 [+17] ・授業に集中 54→70 [+16] ・授業が理解できる 39→55 [+16] 【教員評価] 改善した項目		 ◎学習に関する項目は、順位は低いものの、数値は改善されている。 更なる上昇が期待できる。ほとんどの項目で改善されており、学校の真 摯な教育活動の成果である。学習意欲への喚起や家庭学習の習慣づ けを今後も継続されたい。 ⑥教員の意識が上がると生徒にその熱意は伝わる。上高独自の授業 	
2		② 相談活動及び個々に応じた指導の充実 を図り、個々のキャリアを形成していく進路実 現を図る指導	産業社会と人間、総合的な 学習の時間での指導	項目2に該当する結果のみ示す。 【教員評価】ベスト3 ①教育目標・指導重点理解 [63] ③望ましい職業観育成 [60] [生徒評価]ワースト3 ①自主的な学習習慣 [20] ②授業計画把握 [52] ③授業の内容理解 [55]	A	【教員評価】改善した項目 ・シラバス組成別評価 21→41 [+20] ・望ましい職業観の育成 46→60 [+14] ・補充的学習指導 33→46 [+13] ・家庭学習と授業の一体化 9→16 [+7] [生徒評価] 改善が必要な項目 な 【教員評価】改善が必要な項目 ・基礎基本の定着を図る 59→55 [-4]	4	スタイルを構築してほしい。生徒が身を乗り出すよう 応援業を、年間何 時間行えるかにかかっている。生徒の学力差が大きいので、補充的な 指導に加えて、幅広い学力層に応じた発展的な学習指導を望む。 ②生徒の気づきを促すためには、学習する単元の評価規準を生徒がど の程度理解しているかに左右される。今後も共有し学びを進めてほし い。 ③ブレスタの前に、まずは課題(宿題)を充実させることだと思う。その次 の段階として、自主学習(予習)があると。特にスローラーナーには「学習 の段階として、自主学習(予習)があると。特にスローラーナーには「学習	
		③ 主権者教育や社会参画・地域連携事業 を通して、未来を担う公民としての資質を育む 指導	行事アンケート等	【教員評価】ワースト3 ①家庭学習と授業の一体化 [16] ③発展的な学習指導 [33]		これまで下降し続けた学習活動に関する項目が、R2年度に大きく上昇 した。評価点自体はまだ低いが、補充的学習指導の充実およびシラバスや観点別評価の生徒との共有を進めたことで改善が図られたと考察する。今後はオンラインの学習支援の仕組みをうまく活用することが課題である。段果と家庭学習の一体化をさらに進めながら望ましい学習習慣の確立と確かな基礎学力の育成を目指す。	*& & & }	か出方・方法がわからない」「自分がどの部分がわからないのかわからないなどの実態があり、自分に合った学習方法が身につくようになると、自主性が生まれてくる。 「自分はここまでは理解できている」「この分野が苦手だ」「ここがよく わからない」などの生徒の生の声を吸い上げて、それらの実態をどこまで授業に反映できるかが大切。	
		① 文武両道の実践に向けた指導と各部の 目標達成への積極的且つ規律ある部活動の 指導	学校評価アンケート等	以下、生徒評価および教員評価のベスト3、ワースト3のうち、この評価 項目3に該当する結果のみ示す。 【教員評価】ベスト3		[生徒評価]改善した項目 14 部活動の積極的参加 43→68 [+25] 17 避難場所経路の把握 44→69 [+25] 20 いじめ不登校未然防止 37→57 [+20] 【教員評価]改善した項目 20 いじめ不登杖未然防止 48→63 [+15]		◎生徒会活動というと、委員会活動や部活動、生徒会行事の学園祭などが思い浮かぶ。コロナ禍で生徒数減少もあるが、先生と生徒の叡智を結集して、取組の過程を大切にする実践を進めてもらいたい。	
3	に、語活動をどおしていずの唯で かな成長を図る指導に努める。	② ホームルーム活動をとおして活力あるク ラスづくりを目指すと共に、いじめをなくし生命 ケート人格を尊重する態度を育てる指導	心ボックスやいじめアン ケートの活用	① いじめ不登校未然防止 [63] ② カウンセリングマイント で生徒応対 [62] (1) ではの不登校未然防止 [63] ② カウンセリングマイント で生徒応対 [62] (2) 生徒会活動活性化の工夫 [32]	В	9 かりと中/グインドで生徒応対 53―62 [+9] 12 部の規律ある指導 39―46 [+7] 13 生徒会活動活性化の工夫 25―32 [+7] [生徒評価] 改善が必要な項目 なし 【教員評価】改善が必要な項目 なし	3	◎上野原市の小中学校では、朝読書(または朝学習)の形で10~15分 授業前の取組を行っている。高校生になると、スマホで本(コミックなど を含む)を読んだりすることもあるのでは、情報過多の時代にあって、多 (の情報から正し、情報を見極める力が必要なので、適切なスマホ利 用も広い意味での読書と言ってもいいのではないか。 ◎PTA活動に対する関心の低さに注目した。PTA役員の活動内容にも	
		③ 集団活動や種々の読書活動をとおして、 思考力・判断力・表現力などの育成を図り、 他と協働し協力し合うなど、思いやりのある心 を育てる指導	学校評価アンケート等	(保護者評価)ベスト3 (3)保護者の意見が言える[58]		コロナ禍のため停滞していた生徒会活動の一部が再開され、部活動に 対する積極性が上昇した。いじめ等の問題解決に多くの教員がチーム を組んで、対応していることが高い評価につながった。今後もこの体制を 継続する。	関	関係あるが、SNSやHPなどを活用した保護者への働きかけの工夫が必要だと思う。	